

復活節第五主日

2013.4.28

ヨハネ 13・31-33a,34-35

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」今日のミサの中で、私たちはあらためてこのイエスのみことばを思い巡らすようにここに招かれています。今日のミサの中に響くこのみことばは、十字架の死を前にしたあの最後の夜、イエスのもとに留まり続けた弟子たちとともに囲んだ最後の晩餐でイエスが残して行かれたみことばです。ゴールデンウィークの中、私たちもこのミサにおいてイエスの祭壇のもとに留まって、イエスの愛のみことばを受け止めようとしているのです。このミサに集うことによって、私たちもあの最後の晩餐の時に、イエスが示してくださったイエスの愛に結ばれているのです。

ヨハネ福音書は、イエスが弟子たちとともにされたあの最後の晩餐を語るに先立って、次のように述べています。

「さて、過ぎ越し祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移るご自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」(ヨハネ 13・1) 今や、十字架の死によって父なる神のみもとに行くご自分の時が来たことを悟られたイエスは、この世に残される弟子たちをきわみまで愛し、その愛を弟子たちに伝えようとされているのです。

弟子たちとともにあの晩餐の席に着かれたイエスは、弟子たちの足を洗ってくださったのでした。「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか。」「わたしの足など決して洗わないでください。」と言うペトロに向かって、イエスは言わす。「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる。」それでもなおも辞退しようとするペトロにイエスは言われるのです。「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる。」そう言われて、イエスはペトロだけではなく同席していた弟子たち皆の足を洗ってくださったのです。このようにして、あの最後の晩餐の夜、イエスは弟子たちに対する御自分の愛の思いを示してくださったのです。弟子たちがこの後どのような行動を取ろうとも、その弟子たちに対するイエスの愛のかかわりは、揺らぐことがないことを、弟子たちが後になって悟ることができるように、イエスはあの時、弟子たちの足を洗ってくださったのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」イエスのこのみことばは、そのイエスを十字架の上に見捨てることになる

弟子たちを愛し抜かれておられるイエスの愛のきわみを示すみことばです。

今日の福音に続く箇所では、「主よ、どこへ行かれるのですか。何故今ついて行けないのですか。あなたのためならいのちも捨てます。」と言ったペトロに、「はっきり言うておく、鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう。」とイエスは言われます。このようなペトロをイエスは知っておられるのです。そして、そのペトロにイエスは言われたのです。「わたしの行くところに、あなたは今ついてくることが出来ないが、後について来ることになる。」イエスは全てを知っていてくださるのです。ペトロの弱さのゆえの挫折にもかかわらず、そのペトロをペトロと名づけられたイエスのペトロに対する愛は、いささかも損なわれることがなかったのです。イエスが捕えられて大祭司の館に引き立てられて行った時、イエスが言われたとおり、その場から逃げ出してしまったペトロは、復活されたイエスと出会うことによってそのことを悟ったのです。イエスの復活によってもたらされたこの悟りの中で、ペトロは今度こそ、いのちをかけてイエスの後について行く道を歩み始めるのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」イエスがあの最後の晩餐で残されたこのみことばを、今日ここに集う私たちは、私たちにに向けて語られているイエスのみことばして聴きました。イエスはあの時と同じように、ここに集う私たちに語りかけておられるのです。このみことばによってイエスは、ここに集う私たちをあの最後の晩餐で弟子たちに伝えようとされた愛のきわみに招き入れようとされておられます。

あの最後の晩餐の時に、弟子たちの全てを知ってくださったイエスは、ここに集う私たちの全てをも知ってくださるのです。決してイエスが言われるように、互いに愛し合うことの出来ない私たちの全てを知ってくださるのです。私たちが私たちについて知ることが出来るのは、私たちはイエスが言われるようには互いに愛し合うことが出来ないということです。けれども、そのような私たちに、イエスはあえて「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい。」と呼びかけてくださるのです。イエスのこの呼びかけは私たちの実情を無視した、私たちを突き放す厳しい、律法としての掟のことばではありません。

イエスのこのみことばは、この世の闇の支配者であるサタンに魅入られたユダが、イエスを引き渡そうと夜の闇の中に出て行った後で語られたみことばです。イエスはそのユダの足をも洗ってくださったのです。けれども、サタンに魅入られてしまっていたユダにはそのイエスの愛の心を届かなかったのです。こうしてイエスは御自分が愛しておられたその弟子によって、この世の闇の支配の力に引き渡され、十字架の上に上げられたのです。

今日私たちが聴いた福音の初めには、そのようにして始まった十字架の死に立ち向かうイエスのみことばが響いています。「今や、人の子は栄光を受けた。」今日の福音に響くこのイエスのみことばは、何を私たちに訴えようとしているのでしょうか。愛する弟子の一人がイエスを引き渡そうと夜の闇の中に出て行ったその時、人の子としてのイエスの愛の栄光が、その闇の中に輝き出るのは、愛する者の心に届くことのなかった、愛する者を引き止めることが出来なかったイエスの愛の栄光が輝き出るのは、愛する者に裏切られることになるまさにその時、イエスは「今や人の子は栄光を受けた」と確信に満ちて宣言されるのです。愛する者から裏切られた人の子イエスの愛において、「神も人の子によって栄光をお受けになった。」とイエスは喜びをもって宣言されるのです。イエスはそのいのちを代償として示されたこの愛こそが、この世にその愛するひとり子イエスをお遣わしになった父のお望みだからです。イエスは続けて言われます。「神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自分によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。」このみことばどおりに、十字架に上げられたイエスは、今や、父がお与えになった復活の栄光の中にご自分を示しておられるのです。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という、今日私たちが聴いたみことばは、復活の栄光の中から、愛の勝利を宣言されるイエスのみことばです。弟子たちの心に届くことのなかった、愛する弟子に裏切られたイエスの愛の勝利を宣言される、十字架の死をもって復活された私たちの主イエスの、私たちに向けて今日も語りかけるみことばです。復活を信じるということは、十字架において示されている愛の勝利を信じるということです。イエスはその十字架をもって、私たちをこのような愛に招いておられるのです。

イエスの復活を知ったペトロを始めとする弟子たちがその生涯をかけて宣伝したこのようなイエスの愛を受け止めて生きる恵みを願って、あの最後の晩餐を記念するこのミサを感謝のうちにお捧げいたしましょう。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高